

## 水稻雑草・除草剤について

桜が散り、天気も寒暖を繰り返しながら徐々に夏の季節へ切り替わろうとしています。外に出てみると田植したての圃場が増えてきており、水稻が始まる時期となってきました。それと同時に夏の暑さで農作業が大変な季節になりますので稲も体も十分気を付けて作業していただければと思います。近年では作業時間を短縮することのできる肥料農薬資材が普及しておりますので今回はその一例として雑草と除草剤について紹介させていただきます。

### 1. 水稻雑草について

世界中に多種ある雑草ですが日本の水田雑草に限っても様々な雑草が存在します。一年で枯れる雑草もあれば複数年を経て枯れる雑草もあります。地域によっても問題となる雑草が異なる中で、自分の圃場に合った薬剤を選定することはとても重要です。自雑草に適した薬剤を使用することで、残草を残すことなく、散布回数も減らすことが可能です。加えて近年の除草剤は自己拡散する製剤も販売されていますので紹介したいと思います。

#### ●主要な雑草について

雑草は畑地、水田問わず発生しており生産者にとって悩みの種となっております。水稻の雑草においても除草作業は必須となっております大きく分けると多年生雑草と1年生雑草に分けられます。

### 多年生雑草

クログワイ、ホタルイ、カヤツリグサ、コウキヤガラ、ウリカワ、オモダカなど



### 1 年生雑草

ノビエ、コナギ、アゼナ、ミズアオイ、キカシグサ、ミゾハコベなど



## 2. 水稻除草剤

### (1) 除草剤の種類

戦後まもなくは手作業で行われていた除草作業も、現在は化学の発展により少量かつ効果の高い除草薬剤が普及しています。水稻除草剤では稲を枯らさずに雑草を枯らす選択性除草剤がメインで散布されており、成分によってスペクトラムが違ふことで薬剤の特徴が表れています。

#### 水稻用除草剤の特性一覧(例)

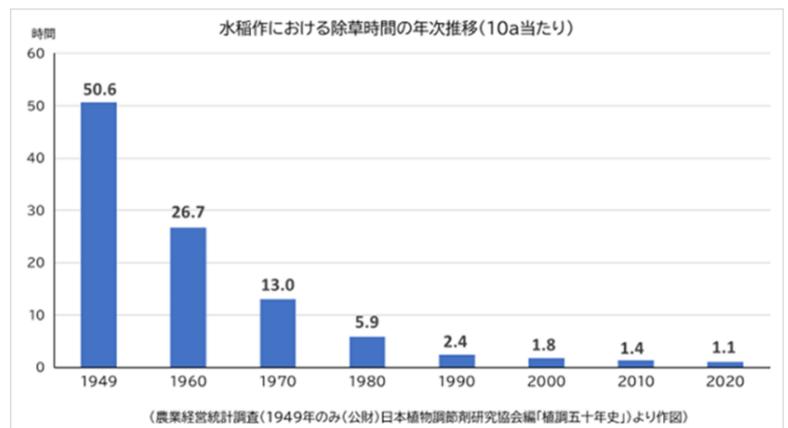
一般名	殺草スペクトラム										残効性	移動性	作用特性	主な混合剤
	ノビエ	カヤツリグサ	コナギ	マツバイ	ホタルイ	ウリカワ	ミズガヤツリ	クログワイ	オモダカ	藻類				
<b>ヒエ剤</b>														
ビラコル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	長	極小	接触型, 光要求性	アパレZ (協友アグリ) エンハラー (クマイ化学)
イフェンカルバリン	○	○	○~○	○	○	△	○	△	△	×	極長	極小	細胞分裂抑制	カホリン (北興化学)
<b>カヤツリ剤</b>														
フモビチド	○	○	○	○	○	○	○	×	△	×	長	小~中	細胞分裂阻害	トップガン (クマイ化学)
<b>広葉剤</b>														
イマゾスルホン	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	長	小	ALS阻害	サラレットGO (協友アグリ)

殺草効果：○=良く効く, ○=効く, △=あまり効かない, ×=効かない

### (2) 省力化剤の普及

水稻作における除草作業は、過去をみると重労働な作業でした。しかし除草剤の導入によって作業時間が大幅に減少しており、生産者にとって必要不可欠なものとなっております。特に近年では、圃場に入らず畦畔から投げ込むだけで圃場全体に効果を広げる自己拡散型の製剤も徐々に普及しています。

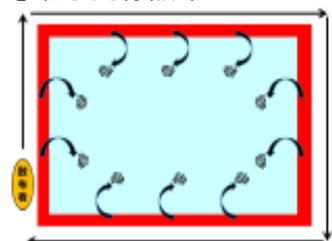
そこで今回は自己拡散型製剤の特徴や主な製品などを紹介いたします。



### (3) 自己拡散型製剤

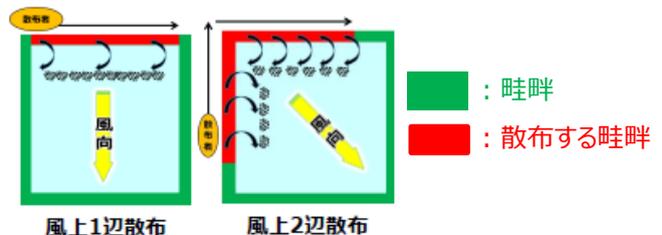
自己拡散型製剤は1ha規模でも圃場内に入って散布する必要がなく、畦畔から投げ込むだけで風と水流によって圃場全体に有効成分を広げることができます。そのため労力の軽減や散布時間の削減につながります。

#### ① 湛水周縁散布



畦畔からの散布イメージ  
畦畔から数回に分けて水田内に散布する。

#### ② 風上散布



顔に風を感じる程度(風速2m/s以上)で、1.5ヘクタール以下の整形圃場であれば、風上側の畦畔1~2辺より散布する。

#### 注意すること

- 藻類や稲わら等の吹寄せへの散布
- 畦畔際への散布
- 風下からの散布



**拡散不良の原因に！！**

## ●楽粒（北興化学）

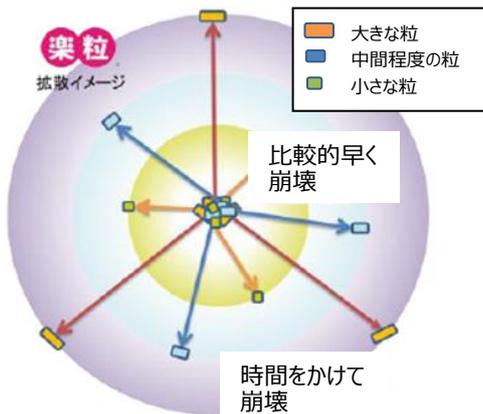
北興化学（株）が独自で開発した新しい拡散性型薬剤です。

独自開発の界面活性剤や楽粒ならではの特徴的な粒で、畦畔から投げ込むだけで広範囲に有効成分を拡散することができます。現代の農業における農業作業の負担や従事者の高齢化などの問題に対し、作業効率の向上が見込める剤となっております。

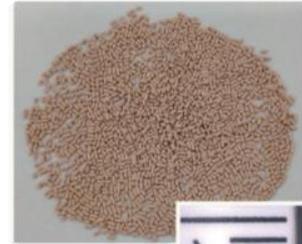


### 拡散性のヒミツ

あえて粒を不揃いにすることで崩壊する時間に差が発生し、安定した拡散を実現することができます。1キロ粒剤と比較しても同じ重量に対し粒の大きく違うことが分かります。



楽粒



1キロ粒

楽粒は瞬時に界面活性剤が圃場に拡散し、その広がりを追いかけるように有効成分が広がります。



●散布直後



●散布 1 秒後



●散布 3 秒後

### 楽粒の散布方法

楽粒の拡散性は従来の製剤と比べても非常に高いことから圃場外からの散布でも圃場全体に有効成分を溶出することができます。近年の気温上昇や高齢化により圃場に入って散布するのは大きな労力がかかりますが、楽粒は機械や道具に左右されずに散布可能であり従来の製剤よりも拡散能力の高い製剤となっております。画期的な製剤ではありますが**登録内容を守って**注意しながら使用しましょう。



左上：袋のまま散布



左上：水口散布



左下：計量カップで散布



左下：ドローン散布



楽粒の紹介



楽粒の上手な使い方

# その除草剤、もしかして 非農耕地用ではありませんか？

—農耕地では使用できません—

プラスα  
マンガシシリーズ  
第24弾！！



\*引用： シンジェンタジャパンHP「病害虫、雑草コラム」、JCPA 農薬工業会「農薬 Q&A」  
北興化学提供資料、各メーカー情報提供より

\*6月号に記載されている内容はJA全農ながさきのホームページに掲載されています。

JA全農ながさきホームページURL：<http://www.ns.zennoh.or.jp>